

資 料

資料-1 日本ペインクリニック学会有害事象調査報告の中での 抗血栓療法や血腫形成に関する記載

2009年 第1回調査の結果（1999年から2009年までの10年間）

- 1) 頸部血腫による窒息 66件（うち1件医事紛争）

2012年 第2回調査の結果（1年間）

- 1) 星状神経節ブロック 血腫 4件（うち2例救急搬送）
- 2) 腰部硬膜外ブロック 血腫 2件
- 3) 傍脊椎神経ブロック 血腫 1件（超音波ガイド下，開胸血腫除去術）
- 4) エピドラスコピー 血腫 1件（血腫除去術）

2013年 第3回調査の結果（1年間）

- 1) ترامadol内服によるワルファリンの作用増強 2件
- 2) 傍脊椎神経ブロック 血腫 1件（超音波ガイド下，緊急血腫除去術）
- 3) 腰部硬膜外ブロック 血腫 1件

2014年 第4回調査の結果（1年間）

- 1) 三叉神経末梢枝ブロック 皮下血腫 2件
- 2) 星状神経節ブロック 血腫 1件
- 3) 頸部・胸部硬膜外ブロック 血腫 2件

その他：各回の調査において複数回答者から，抗血栓薬（抗血小板薬および抗凝固薬）服用中の患者に対する休薬と神経ブロック施術への対処に苦慮しているとの意見があった。神経ブロック目的で休薬した患者が施術後に心筋梗塞を発症した事例も報告されている。抗血栓薬服用患者に対する神経ブロック・インターベンショナル治療実施に関する指針の必要性が指摘されている。

※引用元：日本ペインクリニック学会誌. 2010；17：506-515
日本ペインクリニック学会誌. 2015；22：1-9
日本ペインクリニック学会誌. 2016；23：79-86

資料-2 神経ブロック・インターベンショナル治療の重大な有害事象

手 技	内 容 (件数)
星状神経節ブロック	血管内注入 (6), 異常高血圧 (1), 血圧低下 (1), 心不全 (低酸素血症) (1)
硬膜外ブロック	感染 (3) →硬膜外膿瘍 (1), くも膜下注入 (10) →意識消失・呼吸停止 (2), 血圧低下 (2), 硬膜穿刺・脊麻後頭痛 (3), 神経穿刺 (2), 脊髄穿刺 (1), 血腫 (1)
硬膜外カテーテル関連	感染 (1), 神経根圧迫 (1), 体内遺存 (1)
神経根ブロック	感染 (1) →化膿性脊椎炎・腸腰筋膿瘍, 徐脈 (1)
傍脊椎神経ブロック	血腫 (1) →緊急手術, 硬膜外注入 (1) →重篤な低血圧, 血管内注入 (1) →意識消失・呼吸停止
肋間神経ブロック	気胸 (1)
腹腔神経叢ブロック	気胸 (1)
肩甲上神経ブロック	気胸 (1)
腸骨鼠径神経ブロック	遷延性知覚鈍麻 (1)
下顎神経ブロック	意識消失・呼吸停止 (1)
硬膜外脊髄刺激療法	感染 (1), 創部離開・エクステンション露出 (2), 硬膜穿刺 (1)

※引用元：日本ペインクリニック学会誌. 2016；23：79-86